

HAPS モバイル、NASA のアームストロング 飛行研究センターで「HAWK30」の 初テストフライトに成功

ソフトバンク株式会社の子会社である HAPS モバイル株式会社（以下「HAPS モバイル」）は、NASA（National Aeronautics and Space Administration、アメリカ航空宇宙局）のアームストロング飛行研究センター（Armstrong Flight Research Center、以下「AFRC」）において、2019年9月11日（米国太平洋時間）に、ソーラーパネルを搭載した成層圏通信プラットフォーム向け無人航空機「HAWK30（ホークサーティー）」の初テストフライトに成功しましたのでお知らせします。

HAPS モバイルは、NASA の飛行機の試験実施許可および安全性の評価を行う委員会である AFSRB（Airworthiness and Flight Safety Review Board）が設ける安全性や飛行運営面など多岐に渡る試験項目を全て突破し、9月9日（米国太平洋時間）に、AFRC におけるテストフライトの実施に関する承認を取得しております。

今後は、AFRC での研究等を実施した後に、米国ハワイ州ラナイ島へ「HAWK30」を移動する予定です。HAPS モバイルは、ラナイ島の成層圏空域でテストフライトを 2019 年度中に実施することを目指し、準備を加速していきます。

ソフトバンク株式会社の代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO であり、HAPS モバイルの代表取締役社長 兼 CEO である宮川 潤一は、次のように述べています。

「『HAWK30』の初テストフライトを実施・成功させることができ、大変うれしく思います。テストフライトを実施するまで、大変長い道のりでした。『HAWK30』が飛び立つ姿を見て、その安定性能の高さを実感するとともに、これまで多くのご指導やサポートをくださった NASA への感謝の気持ちでいっぱいになりました。『HAWK30』は、これから活用段階に入っていく成層圏における空中無線基地局などとしての用途を見込む、太陽光エネルギーを動力とする成層圏通信プラットフォーム向け無人航空機です。まだ一步目を踏み出したばかりですが、今回得られたデータや知見をもって、数カ月から半年の長期間飛行のテストや、成層圏空域におけるテストを今後進めていきます。HAPS モバイルは、情報格差のない世界を目指し、HAPS を通じてモバイルインターネット革命にさらに取り組んでいきます」

■HAPS モバイルについて

HAPS モバイル株式会社は、ソフトバンク株式会社の子会社です。世界の情報格差をなくすことを目指し、HAPS（High Altitude Platform Station）事業を企画・運営しています。主に、HAPS 事業に向けたネットワーク機器の研究開発や、コアネットワークの構築、新規ビジネスの企画、周波数利用に向けた活動などを行っています。米 AeroVironment, Inc.は、地上約 20 キロメートルの成層圏で飛行させる、HAPS モバイルのソーラーパネルを搭載した成層圏通信プラットフォーム向け無人航空機「HAWK30」の機体開発パートナーです。また、HAPS モバイルは、米 Alphabet Inc.の子会社である Loon LLC と戦略的関係に

合意しています。詳細はホームページをご覧ください。

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
 - その他、このプレスリリースに記載されている会社名および商品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。
-